

第7回四日市市行財政改革推進会議概要

○日 時:平成15年2月19日(水) 午前10時~12時

○場 所:市役所7階部長会議室

○出席者:委員 丸山 岩崎 伊藤 稲沢 大矢知 鹿嶋 加藤 後藤 (敬称略)

1. 開 会

2. 審議事項

(1)研究会報告(2つの研究会から議論の内容を、提言の骨子(案)というかたちで報告)

[1]「財政の健全化と財政基盤の確立について」

〔検討の視点〕

平成13年度提言書の6項目について点検し、

- ①市が取り組んでいる部分は、それを評価し、後押しする。
- ②取り組みが進んでいない部分は、どのように取り組めばいいか。
- ③その他、財政健全化のための新しい視点の提案と取り組みの方向。

〔報告書の構成〕

- ①平成14年度の取り組みに対する評価と今後の課題
- ②平成14年度取り組みがなされなかった事項に対する具体的方策の提案
- ③産業都市の発展(歳入増加)を目指すための提案
- ④大型公共施設の運営の見直しについての提案

〔委員からの意見・質問等〕

- 補助金の見直しについては、団体の活動成果を評価する基準をどうするのか。
- 市で導入されている業務棚卸表の成果指標の考え方を、そのまま取り入れて評価できるのではないかと考えている。
- 補助金の中には、本来、委託料や負担金ではないかと思われるものが散見される自治体が多い。四日市はどうか。

〔事務局〕

予算要求時に十分議論しているのではないはず。しかし、時間の経過とともに内容が違ってきているものもあるのではないかと懸念はある。

- 補助金は、本来、団体の自主事業と市の政策・施策の方向が合致した場合に支出されるべきもの。つまり、奨励金の意味合いを持つ。奨励ということであれば、3~5年の年限が必要ではないか。

- 産業振興という点で、既存ストックの活用という視点は大事。

産学官の連携を強め、学生の時に実務経験を積み、その分野でかなりの程度のスキルを持った学生を輩出できるような仕組み等が必要。そのために補助金等の支出も必要。

- 新たなシステム導入は、全国的に評価できる。しかし、これが企業や市民のストレスになってしまえばマイナス。それに対するフォローとの両輪でなくてはならない。財政を切り詰めるだけでなく、多少の支出が伴っても、産業を活性化していく政策に結びつくような提言が必要。

また、新しい予算システムが、まだ市民に理解されていない点があるので、PRが必要。

- 大型公共施設について、その運営経費等が市税の8%を占めている。その上、利用率が必ずしもよくない。市民からの見直しの気運を高めるためにも、こういった事実を、まず市民に知ってもらうことが大事ではないか。

〔事務局〕

起債について、起債発行残高を減らすということで目標を定めた。しかし、国の地方財政計画で、地方交付税の代わりに臨時財政対策債という形で、一旦、市で借金を起こすことになった。当市の平成15年度予算の内、臨時財政対策債の額が41億円となり、これが市の借金になってしまう。したがって、目標値を再検討する必要がある。

[2] 「IT(情報技術)の活用による行政の効率化と情報提供について」

〔検討の視点〕

- ①自治体に集められる個人情報には安全に管理されているのか。
- ②氾濫する情報の中で、真に市民に必要な情報は何か。
情報をどのように取舍選択すればいいのか。
IT化の進展についていけない人はどうなるのか。

〔報告書の構成〕

- ①個人情報の適正な管理については、特に職員の意識向上策を継続すべき
- ②市民の求めるサービスへの対応について、再度組み直す必要があるのではないか。
 - ・携帯電話を利用した市民へのサービス提供を考える必要があるのではないか。
 - ・現在、市が進める施策の中でどういう視点が必要か。
- ③情報基盤の整備については、インフラ整備に大きな資源を投入するのは控え、市民に直結したサービスの提供をもっと行なうべき。
- ④推進体制として、現場から市民のニーズを拾い上げたものをIT化できるような仕組みをつくること。また、ITを契機に、どんどん新しいものに取り換えていくという組織風土をつくっていくべき。

〔委員からの意見・質問等〕

- ハードウェアの進歩は本当に激しい。指紋認証、ICチップによる個人認証等実用化され始めている。しかも民活で開発が進んでいる。
四日市市の場合、CTYがかなり普及している。2011年にはデジタルテレビ放送に切り替わる等インフラ整備は市の予算を使わずとも進んでいく。
そういった動きを見ながら、どういったサービスを提供していったらいいかということを考えていく必要がある。
- 確かに、市民側からみれば、IT化が進んでいるが、行政と市民との関係はというと、なかなか効果が見えていないというのが現状だろう。成果を出していくという視点が大事である。

(2) その他

- 提言書の編集方針
- 今後の日程

3. 次回の推進会議について

平成15年3月24日(月)10時から12時 (市庁舎11階第1委員会室)

4. 閉会